

# 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会通信

V o 1 . 2

平成 27 年 12 月 25 日

発行／編集 武蔵野市健康福祉部地域支援課

## 各部会精力的に活動中！

7月に開催された在宅医療・介護連携推進協議会において設置された、入・退院時支援部会、ICT連携部会、多職種連携推進・研修部会、普及・啓発部会については、8月に第1回の部会を合同で開催（ICT連携部会除く）し、今年度の取組内容について協議を行いました。

（右写真は8月28日合同会議の様子）  
9月以降、各部会において精力的に活動を行っています。以下に、それぞれの部会の進捗状況を記載します。



## 多職種連携推進・研修部会

### 【脳卒中地域連携合同研修会を開催しました！】



11月26日（木）、市役所811会議室にて、多職種連携・研修部会の活動の一環として、脳卒中地域連携合同研修会を開催しました。

当日は、武蔵野赤十字病院医療連携センターの高橋紳一先生、斎藤恭子看護師長をお招きし、武蔵野市における多職種連携の礎となった脳卒中地域連携パスが作られた

経緯や、現状の連携における課題、武蔵野赤十字病院に脳卒中で入院された方の退院後の状況、さらに現在厚生労働省のモデル事業（セルフマネジメント事業）についてお話いただきました。高橋先生の熱気あふれるお話に、参加者（113名）も熱心に聴き入っていました。

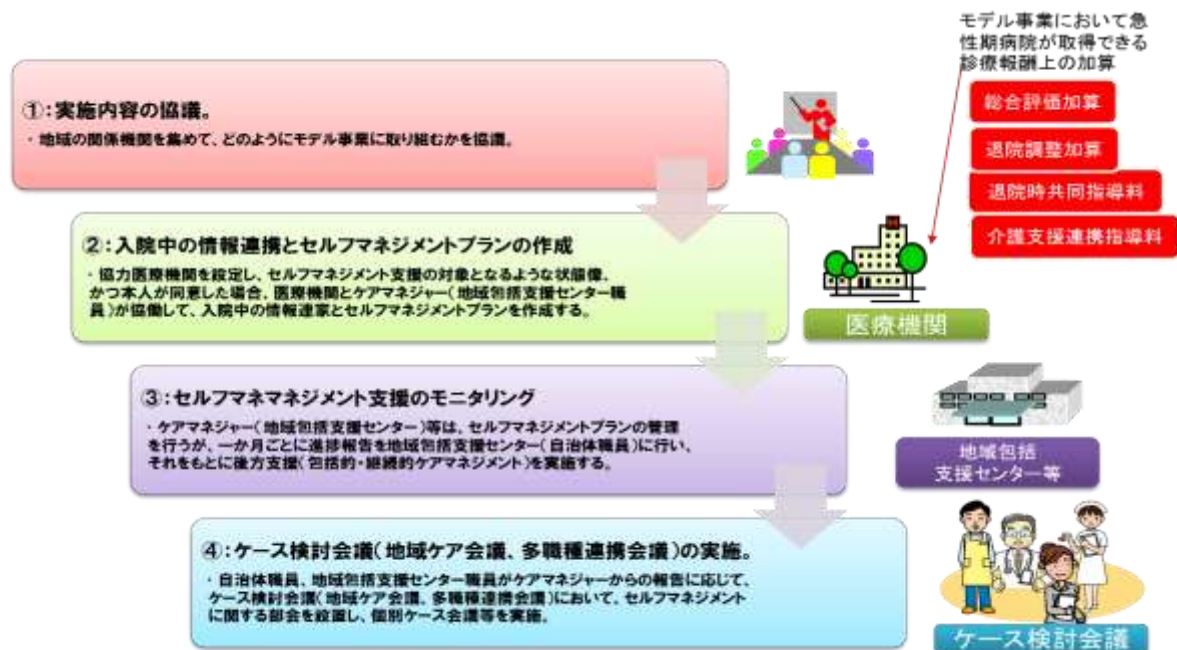
### 【合同研修会の実施を検討しています。】

多職種連携・研修部会では、上記の研修のほか、連携を推進するための課題整理や多職種による協働作業を通じて、相互の役割を理解するとともに、信頼関係を醸成することなどを目的に、合同研修会の実施を検討しています。

# 入・退院時支援部会

## 【セルフマネジメント事業（厚労省モデル事業）について】

厚生労働省が実施する「要支援・要介護者に対する入退院時における継続的な支援を実現するための介護支援専門員支援ツール開発及び効果検証のための調査研究事業（セルフマネジメントモデル事業）」に参加しています。（事業全体のイメージは下図参照）



本モデル事業は、兵庫県立大学大学院の筒井孝子氏による、ケアマネジメントの質の評価に関わる調査研究事業において開発した、要介護者に対する切れ目のないケアマネジメントを実現するためのセルフマネジメント支援の方法と様式について、その効果と有用性を高め、運用のためのガイドラインを作成することを目的に行われています。

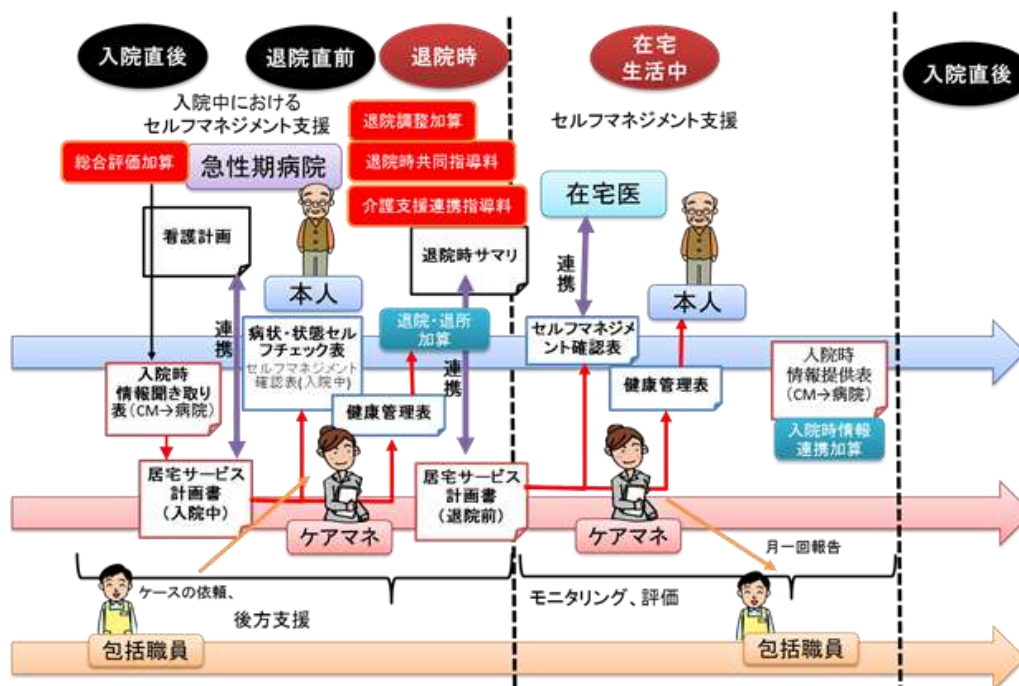
（脳卒中患者の再発率）

	1年	5年	10年
脳梗塞	10%	34%	50%
脳出血	25%	35%	55%

（脳卒中地域連携合同研修会 斎藤恭子氏資料より）

上の表は、脳卒中罹患後の再発率を示したのですが、脳梗塞は1年で10人に1人、脳出血は1年で4人に1人再発しており、再発予防が重要となります。武蔵野市在住の方で武蔵野赤十字病院に入院された脳卒中患者の方も4割近くが退院後、直接在宅に戻られますが、介護認定の必要のない方も多く、その後はセルフケアに委ねられています。しかし、血圧の管理や服薬管理、喫煙、飲酒等生活習慣の改善を長期間続けることは難しいため、セルフマネジメントの支援が必要とされています。

本市では、武蔵野赤十字病院、武蔵野市医師会、居宅介護支援事業者等にご協力いただき、本モデル事業に取り組んでいます。次頁のイメージ図にもあるとおり、入院中においても介護支援専門員が関わることにより、入院・在宅を問わない継続的ケアマネジメントの実現を目指しています。



**【退院時カンファレンスチェックリストの検討を行っています。】**

病院から退院する際に、在宅での支援者や本人・家族が必要な情報について共有し、退院時カンファレンスが効率よく実施できるよう、他自治体で既に行われているものを参考にしながら、チェックリストやカンファレンスシート等の作成を検討しています。

**普及・啓発部会**

普及・啓発部会では、地域医療の在り方検討委員会（平成 26 年度設置）報告書の答申を受け、救急医療体制の仕組みやかかりつけ医を持つことの重要性などを分かりやすくお知らせするパンフレットの作成に取り組んでいます。現在のレイアウト案は下記のとおりです。

全体（6 ページ構成）

（前半：医療の機能分化が進んでいること、かかりつけを持つことの重要性を周知する内容）

※健康づくり事業団のキャラクターDANくんファミリーをモデルに、家族が医療機関にかかることを通じて、医療の機能分化、いわゆる「かかりつけ」を持つことの重要性を伝える。

（後半：在宅生活を続ける上で、様々な専門機関が支援を行っていることを周知する内容）

※前半からのストーリー、すなわち今後の医療のあり方は「病院完結型」から「地域完結型」へ、

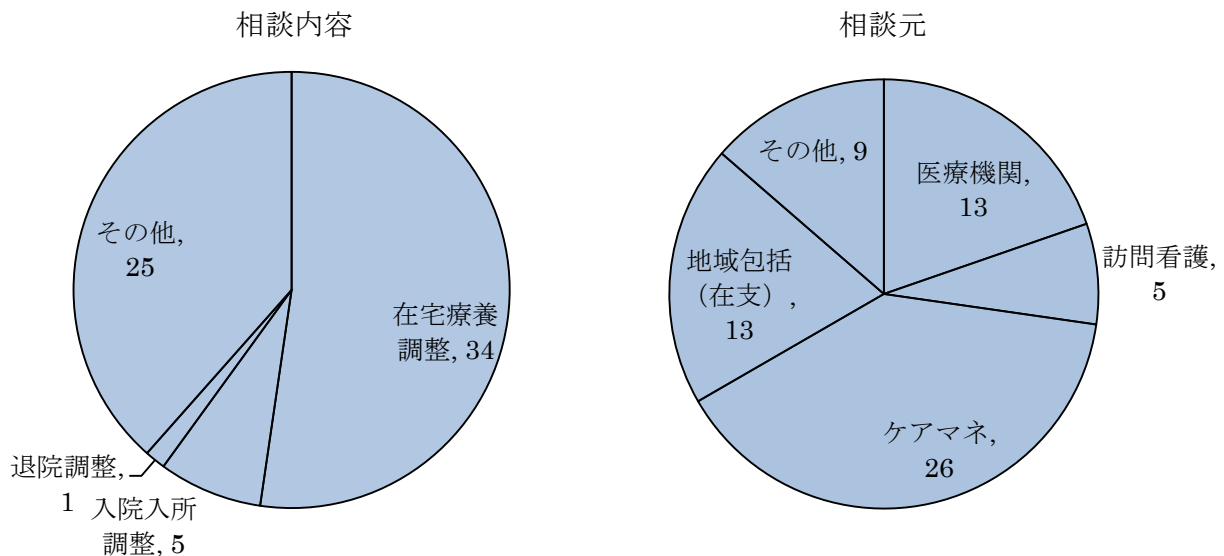
「治す医療」から「治し支える医療」へ転換する方向にあることを意識しつつ表現する。

※在宅生活を支える各専門機関を紹介する。

※在宅生活に関する相談窓口一覧を掲載する。

## 在宅医療介護連携支援室について

武蔵野市医師会館内に設置した武蔵野市在宅医療介護連携支援室では、医療機関や介護関係者の各種サービスに関する相談を受け付けており、7月の開設以来、毎月10件程度の相談があります。これまでの相談内容等の実績は下記のとおりで、ケアマネジャーからの在宅療養に関する相談が多くなっています。



相談日・相談時間・連絡先は下記のとおりで、内容に応じて、事業所や医療機関にも訪問しますので、どうぞご利用ください。

- ・相談日、時間 月・火・木・金 午前9時から午後5時まで
- ・電話番号 0422-39-8780 ・FAX 番号 0422-39-8781
- ・Eメールアドレス musashi-renkei@iaa.itkeeper.ne.jp

## ICT 連携について

武蔵野市医師会で進めているMCS（メディカル・ケア・ステーション）というアプリケーションを活用した連携については、平成27年11月末現在で230名の方に登録いただき、（職種ごとの内訳は右表の通り）また、近隣の自治体でもMCS導入の検討が始まるなど広がりを見せています。利用された方からは「連携が取りやすくなった」「他職種の考え方を学ぶことができた」といった声が寄せられています。

職種	メンバー数
医師	46
歯科医師	14
薬剤師	25
訪問看護・訪問リハ	41
介護支援専門員	47
訪問介護	20
地域包括・在支	15
行政	7
その他	15

ICT連携部会では、「武蔵野市におけるICT連携のルール」について検討を行うなど、職種や所属する組織を超え、関係者間の役割の理解や連携を進めるための多職種連携のツールとしてICTを効果的に活用できるようにしていきます。

**【事務局】** 武蔵野市健康福祉部地域支援課（在宅医療・介護連携担当） 勝又・田上  
 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 電話番号 0422-60-1941（直通）FAX 0422-51-9218  
 Eメールアドレス SEC-CHIIKI@city.musashino.lg.jp